

J-BINGO in AGU: Japan Bridge for International Governmental Organization in AGU

J-BINGO in AGU:
Japan Bridge for International Governmental Organization in AGU

<プロジェクト・メンバー>

飯島 泰裕^{†1} 米山 明日香^{†1} 菊川 人吾^{†1・2} 中村 厚子^{†1}

Iijima Yasuhiro^{†1} Yoneyama Asuka^{†1} Kikukawa Jingo^{†1,2} Atsuko Nakamura^{†1}

^{†1} 青山学院大学社会情報学部

^{†1} School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

^{†2} 内閣官房・デジタル庁 内閣参事官

^{†2} Counsellor, Cabinet Secretariat・Digital Agency

キーワード：国際公務員，国際機関，キャリアプラン

Keywords: International civil servant, International organization, Career plans

1. プロジェクトの実施背景と 目的

将来的に、国際機関を含む、国際的なフィールドで働く日本人職員を増やすことが、日本全体としても喫緊の課題となっている。そのため、青山学院大学社会情報学部においても、学生時代から国際的なフィールドで働く日本人職員との接触機会、国際機関などでのインターンシップの機会等を設けることで、国際機関職員候補を始めとした、国際的なフィールドで、活躍できる人材の育成が必要である。

こうした背景も有り、2015年度より、学生の国際機関等に対する興味や関心を高めるため、関係機関の協力を得ながら、講演会等を実施している（飯島他、2016）。これは、学生達に対し、国際機関を含む、国際的なフィールドも、将来の就職先の一つとして、意識させることを通じ、最終的には、国際的に活

躍する、日本人を増やすことを目的としている。加えて、2016年度からは「プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱ」、2017年度からは「プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱ」、2018年度からは「特定課題演習」と年次進行により、各学年の演習科目で、選択テーマの1つとして扱うことにより、自分のキャリアを考えると共に、より深く、国際的なフィールドで働く、日本人と関われる機会を創出してきた（飯島他、2017～2019）。

こうして、2018年度より各学年の学生が、何らかの形で本プロジェクトに関われる環境を構築してきた。しかし、2020年度はコロナ禍により、例年とは異なり、オンライン上の活動を中心に進めざる負えなくなった（飯島他、2020）。徐々に、制限は少なくなったが、コロナ禍の影響は継続している。そのため、今年度は対面とオンラインを使い分けながら、活動を進めてきた。本稿では、そうした状況下で実施してきた、国際的に活躍する、日本人を増やすことを目的とした、プロジェクトの進捗状況、今後の実施方針等について

報告する。

2. 授業を通じた国際的なフィールドで活躍できる人材育成の取り組み

今年度は学部1, 2, 4年生を対象に活動してきた。1年生には、国際機関の存在を意識させるため、「Integrated English I / II」の時間を利用し、講演会を実施した。2年生は「プロジェクト演習入門 I / II」の選択テーマとして、国際機関等でのインターンの実現に向け、国際的に働くことを理解するため、調査活動に取り組んでいる。3年生は「Cultural Studies」、「English for the School of Social Informatics」の選択テーマとして、2年生時の活動成果を活かし、国際機関等でのインターンの実現を目指し、活動をする予定であったが、残念ながら今年度の履修該当者がいなかったため、開講しなかった。「プロジェクト演習Ⅱ」は昨年度、留学のため履修できなかった4年生が国際貢献に向けて活動を行った。そして、4年生は「特定課題演習」の選択テーマとして、これまでの活動の集大成として、オンラインイベントの実施等の活動を行ってきた。

これらの各科目での活動に加え、月2回程度、J-BINGO プロジェクトに関係する、2, 4年生が集まるゼミを開催してきた。ゼミでは、お互いの調査等の進捗状況を共有すると共に、先輩から後輩に対し、調査活動等に必要ノウハウの伝達を図ってきた。本章では、各学年における、具体的な取り組み内容を記す。

2-1. Integrated English I / IIにおける取り組み状況

1年生を対象とした活動としては、「Integrated English I / II」の時間を利用して、オンライン講演会を2回実施した。対象としたのは、英語の得意な学生が集まるクラス及び、その他の参加希望者とした。講演日時や講師等は表1の通りである。なお、第1回の講演会では、90分の講義時間に、2人の講師からご講演頂いた。また、第2回の講演会では、オンライン講演会であることを活かし、実際に現在、ミャンマーで働いている国際機関職員の方に、ご講演頂いた。

表1 2022年度の講演内容

回数 (実施日)	講師／講師の所属 役職 講演タイトル
第1回 (2022/6/13)	講師： 石川雅恵／UN Women 国連女性機関 日本事務所 所長 講演タイトル： ジェンダーを取り巻く国際的な議論と 国際機関やステークホルダーの役割
	講師： 松島悠史／外務省 国際機関人事センター 課長補佐 講演タイトル： 国際公務員への道 - 国際機関就職の仕 組とそのために必要なこと
第2回 (2022/12/5)	講師： 小野京子／UNOCHA 国連人道問題調 整事務所 ミャンマー事務所副所長 講演タイトル： 人道支援の現場とは？

(敬称略)

また、授業を通じて、講演会に参加した学生を対象に、今後のJ-BINGOプロジェクトの取り組みに対する、参加意欲等を調べるため、2022年12月5日～12月12日の8日間に、オンライン形式でのアンケート調査を実施した。結果、37名からの有効回答を得られた。

まず、授業をきっかけに在学中に、国際機関でインターンをしたいと思った学生は23名(62%)となった。また、国際機関や国際的なフィールドで働いてみたいと思った、学生も16名(44%)となった(図1参照)。入学前から、インターンをしたい、国際的なフィールドで働いてみたいと考えている学生も一定数はいるため、全体としては、どちらも50%を超えている状態である。今年度は、授業中に、J-BINGOプロジェクトに関して説明する機会を設けたことで、一定の学生に、在学中に国際機関でのインターンをしたいと思わせる状況が作れた。

一方で、授業をきっかけに、国際機関や国際的なフィールドで、働きたいと思った学生は半数以下に留まった。これは、2020年度から続く、新型コロナウ

イルスの感染拡大により、学生の海外志向が低下しているためと考えられる。次年度以降に関しても、従来のように、4月からの1年間を掛けて、授業や講演会を通じ、J-BINGO プロジェクトに関する説明や魅力を伝えていくことで、学生の国際機関や国際的なフィールドでの仕事に対する、興味関心を引き出していく必要がある。

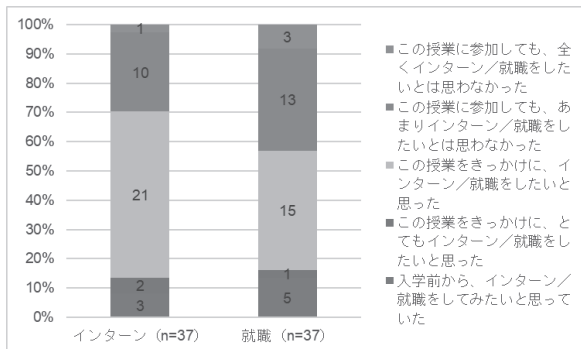


図1 国際機関でのインターン、国際機関や国際的なフィールドへの就職に対する考え

2・3年生科目における、J-BINGO プロジェクトに関する取り組みへの、1年生時の参加意欲としては、2年生科目では23名(62%)、3年生科目では22名(59%)と、どちらも過半数を超える学生が参加意向を示している(図2参照)。第1回講演会において、本プロジェクトの意義、これまでの活動成果を紹介した効果もあり、多くの学生に対し、進級後、J-BINGO プロジェクトに関する取り組みに参加してみたいと思わせられた。よって、次年度も、第1回の講演会で本プロジェクトに関して、学生に説明するという形式は続けていきたい。

なお、今年度は、「Cultural Studies」、「English for the School of Social Informatics」の英語の授業としてカリキュラムが変更されたが、履修者がいなかった。このため、3年生科目は、次年度より、飯島ゼミの中でひとつのテーマとしての活動へと変更される。参加意欲を高めるためには、2年生の「プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱ」において、授業のみならず、「グローバルフェスタ JAPAN」等のイベントを通して、国際機関について知る機会を増やし、J-BINGO の魅力をより伝える必要がある。

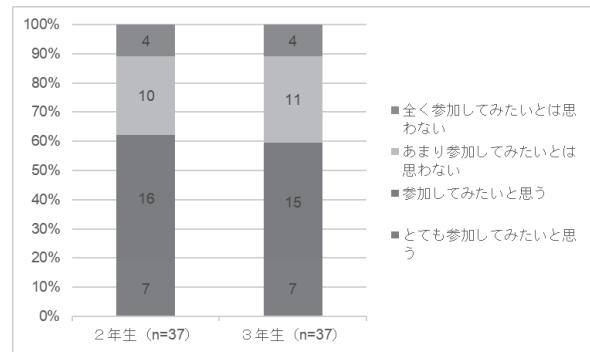


図2 2・3年生科目における、J-BINGO プロジェクトに関する取り組みへの参加意欲

2-2. プロジェクト演習入門

I / IIにおける取り組み状況

2年生を対象とした取り組みとして、社会情報学部2年生以上が対象の前期科目「プロジェクト演習入門Ⅰ」及び、後期科目「プロジェクト演習入門Ⅱ」において、J-BINGO プロジェクトを選択テーマの1つにした。今年度は対面授業の形式で実施できたため、例年通り、ここでは国際機関等でのインターンの実現に向けて、国際的に働くことを理解するための調査活動に取り組んできた。

具体的には教員のサポートを得つつ、自らが京国際機関やNPOなどへアプローチし、様々なヒアリング調査を実施した。その後、それらの成果を活かし、インターンや共同作業等を実践するためのプロジェクト素案を作成することが、最終目標である。

今年度は、前期は24名4グループ、後期は21名4グループの学生がJ-BINGO テーマを選択し、J-BINGO プロジェクトのメンバーとして活動した。

4グループの活動テーマと内容は以下の通りである。

1) 「技能実習生にとって過ごしやすい環境を作るために」

日本語を学びたい技能実習生と、外国の文化や言葉を学習中の日本人をつなぐためのアプリの機能を考えた。日本語学習と文化交流の効果を検証し、アプリに反映するために、多文化共生と宮城県民の国際交流・協力を促進する事業を行っている「宮城県国際化協会」のヒアリング調査をもとにイベントを開催した(図3参照)。

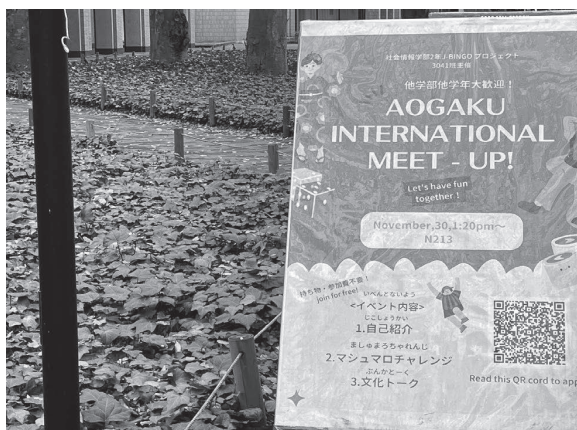


図3 大学内プロムナードに掲示したイベントポスター

イベントは、2022年11月30日（水）13時20分～N213教室を利用して、青山学院大学の留学生4名、日本人学生6名の参加者を対象に実施した。イベントでは自己紹介、マシュマロチャレンジ（マシュマロとパスタを使いタワーを共同で作成するゲーム）、文化トーク、アンケートを行った（図4参照）。その結果、文化交流は相互認識をするためには、とても有効であり、技能実習生に関心を持ち、問題点を理解してもらうためには、SNSで情報発信しする必要があること。また、技能実習生のために技能面、精神面でのサポートをするアプリの機能が重要であるとの結果が得られた。



図4 マシュマロチャレンジの説明をしている様子

2) 「海洋プラスチック問題について」

「JICA 国際協力機構」、「国際環境 NGO グリーンピース」が取り組んでいる課題等を調査した結果、学生が貢献出来る廃棄プラスチックの削減に着目し、青山学院大学相模原キャンパス内セブンイレブンの

ペットボトル回収機の設置の可能性について、相模原事務部学務課での調査と、「セブンイレブンジャパン」にヒアリング調査を行った。回収機設置には、自治体との連携や様々な調整が必要であるため、現時点では、すぐに設置することはできないが、今後このプログラムが拡大していけば、設置できる可能性もあるとのこと回答を頂いた。

3) 「人種差別問題について」

差別の深刻さ、認知度の低さ、コロナ禍において差別が助長された問題点の解決策として、差別を認知・問題を認識し、知識を得ることの大切さに着目し、日本に基盤を持つ「人権 NGO IMADR（イマダ）」へのヒアリング調査を行い、SNSの運用、ワークショップを開催した。



図5 理不尽を体験する人生ゲームの様子

ワークショップは、2022年11月30日（水）13時20分～N213教室で実施した。ワークショップでは差別を認識するために、大学生が社長になるまでの物語の間に、理不尽を体験してもらう人生ゲームを行った（図5参照）。また、差別に関するビデオを視聴し（図6参照）、「世界人権デー」に向けて手紙を書いた。ワークショップを体験する前、後で回答したアンケートにより、ワークショップにより、差別の認知度が高くなる結果が得られた。今回の人生ゲームで設定されたアイデアは、不快な体験をすること無く差別の認知度を高めるといふ、教育的見地からも有効であった。



図6 差別に関するビデオを視聴している様子

4) 「ジェンダー平等について」

「SDGs 5 ジェンダー平等を実現しよう」について調査し、世界的な問題である女性暴力の撤廃へ向けた学生としての貢献を考え、青山学院大学相模原キャンパス内で、UNITE 国連女性機関の「女性と少女に対する暴力撤廃の国際デー」のキャンペーンに参加した(図7参照)。



図7 大学内プロムナードに掲示したキャンペーンポスター

キャンペーンは2022年12月6日(火)～9日(金)12時35分～13時10分の4日間、F棟ラウンジ前において、キャンペーンのチラシ280枚と、暴力のない明るい未来を象徴するオレンジ色の造花を配布し、Instagramで情報発信を行った(図8参照)。チラシには、アンケートのQRコードを添付して女性への暴力についての認知度を調査し、66件の回答を得られた。それによると、女性への暴力に関しては、知る機会があまりなく、無関心な人もいる。女性への暴力を撤廃するためには、SNSでの情報発信、学校

の授業などで認知度を高める必要がある。

なお、今回の活動については、2023年2月UN Women 国連女性機関日本事務所において、グループのメンバーが発表の予定である。



図8 チラシとオレンジ色の造花を配布している様子

ファイナルプレゼンテーションは、オンラインゼミの中で行った(詳しくは2-5参照)。今年度は、コロナ禍の影響もあり、ヒアリング調査は、全てオンラインで行われた。次年度は、アフターコロナに備えて、対面とオンラインどちらの方法でも対応できるように、指導を続けていくことが必要となる。

2-3. プロジェクト演習Ⅱにおける 取り組み状況

昨年度後期、留学で渡米したため、プロジェクト演習Ⅱを履修できなかった4年生1名が選択した。具体的な活動内容は、「カーボンニュートラルに向けて世界が動く中、アフリカ農村部で十分な電気を供給できる未来は描かれるのか」をテーマに、ケニアでの再生可能エネルギーの調査を行った。また、「屋根を借りて電気をつくり、途上国にもあかりをとす」をモットーにビジネスと社会問題に取り組んでいる「一般社団法人GOOD ON ROOFS」にヒアリング調査も行った。アフリカ農村部で十分な電気を供給するには、限られた環境の中で、持続可能な状況を維持する発想力と行動が重要であり、そのための教育が大切であるとの結果を得られた。今後のJ-BINGOにおいて、「アフリカ農村部電化率向上を目指して」をテーマに、実践型アイデアソンを実施することを目標としている。

2-4. 特定課題演習における取り組み状況

今年度は、前期は3名、後期は1名の学生が留学により、休学中のため、2名の学生がJ-BINGOテーマを選択し、J-BINGOプロジェクトのメンバーとして活動している。留学中の学生は、オンラインゼミ（詳しくは2-5参照）には、2回参加をしており、復学時にはJ-BINGOプロジェクトのメンバーとして、活動を再開する予定である。3名の活動テーマと内容は以下の通りである。

1) 国際問題へ興味をひくにはどうしたらよいか、Instagramでの情報発信とフェアトレード商品の販売会を通じた情報発信の2つの側面からの考察。

国際機関や、国際問題に取り組む団体、企業のSNS等の情報発信の方法を調査し、J-BINGOのInstagramの管理運用を行い、J-BINGOの活動を発信した。また、2022年6月27日(月)～7月1日(金)10時30分～13時20分の5日間、購買会において、3年生で実施したインターン先のNPOが取り扱うフェアトレード商品の販売会を行い、国際問題への関心を広める活動を行った（図9参照）。



図9 フェアトレード商品の販売会の様子

2) アフターコロナに対応したJ-BINGOプロジェクトのテキスト作成。

コロナ禍における、オンラインを取り入れたJ-BINGOプロジェクトの活動や、国際的な働き方の変化をヒアリング調査し、記録としてテキストにすることで、アフターコロナでの国際的な活動に役立てる

取り組みをしている。

3) 国際問題や国際機関に関する情報発信を通じた行動促進方法に関する研究。

情報発信に関しては、J-BINGOプロジェクト公式サイト <http://www.cc.aoyama.ac.jp/users/j-bingo/jbingo.html>（青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト, 2019）の管理運用を行った。行動促進方法に関しては、「PICTURE OUR FUTURE ～ウクライナと私たちの幸せな未来を考える～」と、題して、2022年12月14日(水)の18時30分～20時 青山学院大学の学生10名を対象に、オンラインイベントを開催した。イベントの開催には学内のシビックエンゲージメントセンターの皆様にご協力頂いた。活発な意見交換がなされ、国際問題への関心を高めることができた。

2-5. J-BINGO オンラインゼミの実施

それぞれの授業での取り組みと並行して、毎月2回程度、「プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱ」、「プロジェクト演習Ⅱ」、「特定課題演習」において、J-BINGOテーマを選択した学生が集まる、J-BINGOオンラインゼミを開催している（図10参照）。学生たちは、オンラインゼミ時に調査の進捗状況、活動内容等を報告することで、随時、他学年のメンバーや教員からのフィードバックを受けながら、活動を進めてきた。各授業時とは異なり、他学年の報告を聞くことは、お互いにとっての刺激になったと考えられる。

こうしたゼミは、コロナ禍以前には対面形式で実施してきた。しかし、大人数の学生が集まり議論をすること、放課後（5限の後、授業時間帯としては6限）に実施していること、J-BINGOと関連する科目の内「プロジェクト演習Ⅱ」はオンライン授業である等の要因もあり、対面での実施は難しいと判断し、今年度もオンライン形式で開催することとした。

今年度は、後期から学生の一人がスウェーデンに留学しているが、オンラインゼミには、何回か参加をしてきた。時差の問題もあるが、留学中の学生でも参加できるのは、オンラインで実施している強みである。対面形式での実施が可能になった場合でも、オンライ

ン形式と使い分けることが、望ましいと考えられる。

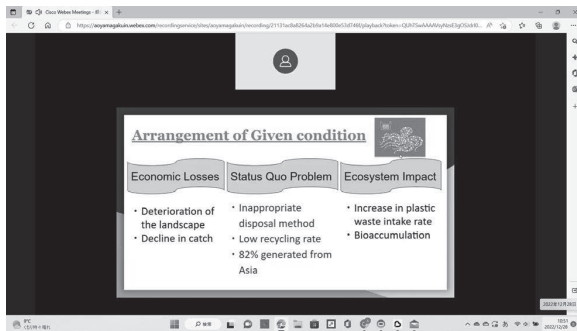


図 10 オンラインゼミ
ファイナルプレゼンテーションの様子

3. 今後の実施方針

今年度も J-BINGO プロジェクトに関連する授業は、対面授業とオンライン授業で行った。今後も、この 2 つの方式で実施する方向である。

Integrated English の取り組みに関しては、前後期で 2 回、オンライン形式の講演会を実施した。講演会の内、1 回はオンライン形式である利点を活かし、ミャンマーで働く、国際機関職員の方からご講演頂いた。また、今後の J-BINGO プロジェクトに関する、取り組みへの参加意欲等を把握するため、アンケート調査を実施した。今年度も国際機関でのインターン、国際機関や国際機関や国際的なフィールドへの就職に対して、学生への関心が引き出せなかった。そこで、次年度の講演会は、J-BINGO プロジェクトに関する説明だけに留まらず、OB/OG から、J-BINGO での経験が、どのように就活や社会人生活に役立っているか、話してもらうことも検討したい。

プロジェクト演習入門では、従来通り、国際機関等でのインターンの実現に向けて、国際的に働くことを理解するための調査活動に取り組んできた。国際貢献に向けて、今年度は、公益財団法人、NGO、民間企業の皆様のご協力を得て、オンラインによるヒアリング調査が実施された。さらに、国際的課題についてどのように対応すべきか、対面でのイベント、ワークショップの開催、キャンペーンの参加により、一定の成果を得られたと考えられる。

プロジェクト演習では、特定の国の問題に着目することを通じ、国際問題等への理解を深め、その解決に向けた方法、社会情報学部生として可能なことを考えるのは、J-BINGO プロジェクトとしては、新しい学習の仕方とも考えられる。今後は、プロジェクト演習Ⅱの最終報告会の結果を踏まえ、調査活動に関して、報告書を作成してもらう予定である。

特定課題演習では、Web サイトや Instagram による情報発信に加え、アフターコロナに対応した J-BINGO プロジェクトのテキスト作成、対面でのフェアトレード商品の販売、オンラインイベントの開催を行った。実際に開催してみたことで、様々な気づきが得られたと思う。今後は特定課題演習の最終報告会で、一年間の活動成果を報告してもらう予定である。

今後は、コロナ禍におけるオンラインでの授業の体制を活かした、取り組みが大事だと考えられる。また、調査研究の面では、国際的な活動をする機関へのヒアリング調査、もしくは関係機関を集めた研究会の実施がしたい。加えて、国際機関への就職支援に強い大学との連携の模索等を経て、将来的には、本学が関係機関の結節点になれるような、活動を進めたい。

謝辞

講演会にてご講演頂きました講師の皆様方に、感謝の意を表します。また、J-BINGO オンラインゼミにてご講演頂きました外務省の皆様方、ヒアリング調査にご協力頂きました皆様方、オンラインイベントにご協力頂きましたシビックエンゲージメントセンターの皆様方、フェアトレード商品の販売でご協力頂きました青山学院購買会相模原店の鈴木琢朗店長、本プロジェクトの活動全般にご協力頂きました、国際連合工業開発機関 東京投資・技術移転促進事務所（UNIDO 東京事務所）の村上秀樹次長に、感謝の意を表します。

なお、本研究は社会情報学研究センターによる研究プロジェクト「J-BINGO in AGU: Japan Bridge for International Governmental Organization in AGU」の成果の一部です。

参考文献

- [1] 青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト「青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト」, 2019 年, <http://www.cc.aoyama.ac.jp/~j-bingo/jbingo.html>, Accessed.2021.12.16.
- [2] 青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト「青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト 公式 Instagram」, <https://www.instagram.com/j.bingoinsta2021/>, 2021 年, Accessed.2021.12.23.
- [3] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO at AGU」『青山社会情報研究』第 8 巻, 2016 年, 75-78 ページ.
- [4] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 9 巻, 2017 年, 63-67 ページ.
- [5] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 10 巻, 2018 年, 78-83 ページ.
- [6] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 11 巻, 2019 年, 58-65 ページ.
- [7] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 12 巻, 2020 年, 86-92 ページ.
- [8] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 13 巻, 2021 年, 58-65 ページ.